

第3学年 音楽科学習指導案

は組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 本田康幸

1 題材 ふしのかんじを生かして I

教材 「茶つみ」 文部省唱歌
「ふじ山」 文部省唱歌 巖谷小波 作詞
「まつり花」 中国民謡 花岡恵 日本語詞（本時主教材）
◎ 組曲「動物の謝肉祭」より「白鳥」 サン＝サーンス作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第2学年題材「うたって あそんでⅡ」で、歌詞と曲の気分を関連付けて、歌いながら体の動きを工夫したり色々な国の遊び歌を鑑賞したりする活動を通して、曲の気分に合わせて工夫しながら表現する喜びを味わってきている。さらに子どもたちは、歌詞を基にして様子を思い浮かべたり旋律の特徴を生かしたりして演奏したいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、様子を思い浮かべて歌ったり、なめらかな旋律をもつ楽曲を鑑賞したりする活動を通して、なめらかな旋律の特徴を生かして演奏する能力を高めるとともに、曲の感じに合った表現の工夫に関心をもち、進んで歌ったり鑑賞したりしようとする意欲や特徴を生かして強弱の変化を付ける工夫について追求しようとする能力を高めることをねらいとして、本題材「ふしのかんじを生かして I」を設定した。

ここでの学習は、特徴が異なる旋律を感じ取り、表現を工夫しながら演奏する能力を育てる第3学年題材「ふしのかんじを生かしてⅡ」の学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

なめらかな旋律の特徴を生かして強弱の変化を付けながら演奏する能力を高めるためには、**特徴が異なる楽曲同士を比較し共通点や差異点を発見したり、旋律のまとまりごとの変化を感じ取ったりしながら演奏や鑑賞をする楽しさを味わえるようにする**ことが効果的である。特にこの期の子どもたちには、歌詞にある事物の様子を思い浮かべたり音の高さや旋律の流れに合わせて体を動かしたりしながら表現の工夫をする能力を高めていくようにすることが大切である。

具体的には、まず、「茶つみ」を取り上げる。この楽曲は、茶摘みの様子を想起しやすい歌詞の内容であるとともに、手遊び歌として取り上げることで拍の流れを感じたり旋律のまとまりを感じたりしながら歌うことに適している。そこで、手遊びを入れた活動を通して、歌いながら体を動かしたり体の動きを変えて旋律のまとまりを感じ取ったりする喜びを味わえるようにする。

次に、「ふじ山」を取り上げる。この楽曲は、日本のシンボルである富士山をたたえており、雄大で美しい山のイメージとなめらかな歌い方や音色、強弱の工夫とを関連付けて歌うことに適している。そこで、富士山のことについて話し合いながらイメージを膨らませたり、旋律の流れを基にしてまとまりや変化を感じ取ったりする活動を通して、強弱や音色の表現を工夫する楽しさを味わえるようにする。

さらに、「まつり花」を取り上げる。この楽曲は、中国の代表的な民謡の一つであり、中国の人に親しまれている小さな白いまつり花を想像しながらなめらかな旋律を表現したり、強弱や音色をイメージと結び付けて工夫しながら歌ったりすることに適している。そこで、大きさや美しさ、人々の心情等について話し合い「ふじ山」と比較しながら、強弱や音色を工夫して歌う楽しさを味わえるようにする。

さらに、「組曲『動物の謝肉祭』より『白鳥』」を取り上げる。この楽曲は、主な旋律が、なめらかな感じであり、白鳥が湖面を優雅に泳ぐ様子と関連付けながら鑑賞することに適している。そこで、旋律の感じに合わせて体を動かしながら聴く活動を取り入れ、なめらかな旋律を感じ取る喜びを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、なめらかな旋律を感じ取り、特徴を生かして音色や強弱を工夫する楽しさを味わい、表現を工夫しながら活動することに興味・関心を高め、拍の流れにのって演奏できているか振り返りながら演奏しようとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 3年は組 男子19名 女子19名)

① ふしのかんじを生かして歌うことは楽しいですか。
はい (34名) いいえ (4名)
② その理由を教えてください。
【「はい」と答えた理由】 元気になる (12名) 気持ちがいい (9名) 思ったように歌えてうれしい (6名) 楽に歌える (2名) 気分がのってくる (3名) 何となく楽しく感じる (2名)
【「いいえ」と答えた理由】 どうしていいかわからない (2名) のどが痛くなる (1名) くらくなる (1名)
③ なめらかなふしの感じの曲を歌うときにどんなことに気を付けていますか。(複数回答)
歌う時の姿勢や態度 (11名) 音色 (12名) 声の高さ (5名) 音の長さやリズム (12名) 表現の工夫 (なめらか・やさしく) や気分 (6名) 強弱を付ける (3名) 分からない (3名)
④ 「日の丸」をふしの感じに合わせて工夫しながら歌いましょう。
・ なめらかに正しい音程で歌うことができる。 (35名) ・ なめらかに歌い、曲の山場で盛り上げて歌うことができる。 (5名) ・ なめらかだが、正しい音程で歌うことができない。 (3名)

①から、子どもたちの多くは、旋律の特徴を生かして歌うことに楽しさを感じている。一方で4名の子どもたちが楽しくないと答えていた。その理由として、「どうしていいかわからない」等の答えが挙げられた。(②)また、③から、工夫の観点を明確にできない子どもがいることも分かる。そこで、具体的にどこをどのように工夫するのか音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを基にして、工夫の見通しがもてるようにし、表現を工夫する楽しさを味わうことができるようにする必要がある。

さらに、④から、音の跳躍が少ない旋律においても正しい音程で歌えない子どもがいることが分かる。そこで、旋律把握をする際は、一斉指導だけではなく個別に指導できるように学習形態を工夫した活動を取り入れる必要がある。また、旋律のまとまりごとに変化やイメージと強弱の工夫を関連付けられるように旋律のまとまりや歌詞にある事物を比べる活動に取り組みさせる必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえて、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。

- ア 旋律の感じやイメージに合わせて表現することのよさや楽しさを味わうことができるように、歌詞に出てくるものの画像を提示してイメージを膨らませたり、表現の工夫について試させたりする。
- イ なめらかな旋律を感じ取り、音色や強弱の変化を付けて、工夫することができるように、旋律に合わせて体を動かしながら感じをつかませたり、楽曲中の変化や楽曲同士の共通点・差異点を板書や歌詞カードから感じさせたりする。
- ウ なめらかな感じを生かして音色や強弱の変化を付けた表現をすることができるように、観点を明確にさせて表現したり聴いたりさせる。

3 目 標

- (1) 旋律の感じを生かして表現することに関心を持ち、拍の流れによって強弱を工夫して演奏できているか振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) 旋律のなめらかさを感じ取りながら、特徴を生かして音色や強弱を工夫することができる。
- (3) なめらかな感じを生かして音色や強弱の変化を付け、拍の流れにのりながら演奏をすることができる。

4 指導計画（全4時間）

過程	時	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1	「茶つみ」	<p>ようすを思いうかべて手合わせあそびをしながら歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 茶つみの様子について話し合う。 ○ 曲を聴き、手遊び歌に取り組む。 ○ 旋律のまとまりで変化する場所の手の打ち方を工夫しながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動きを合わせて取り組み、全員が楽しく取り組むことができるように、教師との手遊びから始めるようにする。 ○ 旋律のまとまりを感じるができるように、まとまりが終わるところで手を打つ動きに変化を付けるようにする。
課題追求Ⅰ			<p>ふじ山のかんじが出るように歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 富士山のイメージについて話し合う。 ○ 曲を聴き、感じたことを発表し合い、学習について話し合う。 ○ 旋律の感じや富士山のイメージに合うような工夫を試行する。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 	
課題追求Ⅱ	2	「ふじ山」	<p>まつり花のかんじが出るように歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まつり花のイメージについて話し合う。 ○ 曲を聴き、感じたことを発表し合い、学習について話し合う。 ○ 旋律の感じやまつり花のイメージに合うような工夫を試行する。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演奏するとき工夫する観点を持ちながら取り組むことができるように、出た意見を構造的に板書する。 ○ 既習経験を生かして表現の工夫に取り組むことができるように前時の板書を提示し比較させるようにする。
課題追求Ⅲ			<p>ふしのかんじをかんとりながら「白鳥」をきこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材内の学習を振り返る。 ○ 学習の進め方について話し合う。 ○ 体を動かしながら聴き、なめらかな旋律や白鳥の様子について話し合う。 ○ 学習のまとめをする。 	
課題解決	3 (本時)	「まつり花」	<p>ふしのかんじをかんとりながら「白鳥」をきこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材内の学習を振り返る。 ○ 学習の進め方について話し合う。 ○ 体を動かしながら聴き、なめらかな旋律や白鳥の様子について話し合う。 ○ 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表現を工夫した場所に意識して聴くことができるように、観点を発表してから歌うように助言する。 ○ なめらかな旋律を感じ取ったり様子を思い浮かべたりすることができるように、「このふしにはどんな動きが合うかな」や「白鳥はどんな様子なのかな」等の発問をする。
	4	「白鳥」	<p>なめらかなかんじに合わせて声や強さをくふうすることができた。</p> <p>中国のことも知ることができてうれしかった。</p>	

5 本 時 (3 / 4)

(1) 目 標

- ア なめらかな旋律の特徴を生かして表現することに関心を持ち、進んで活動に取り組むことができる。
- イ 旋律のなめらかさやまとまりを感じ取り、花のイメージに合わせて音色や強弱の工夫をしながら演奏することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが、旋律のなめらかさを感じ取ることができるようにするために、旋律の感じに合わせて体を動かす活動に取り組ませるようにする。その際、行進の時の動きなどと比較させることで旋律の特徴を明確にとらえられるようにする。また、歌詞で取り上げられているまつり花のイメージに合うように音色や強弱を工夫することができるようにするために、**前時までの学習と比較した板書にしたり、拡大歌詞に工夫することを記入したりしていくようにする。**

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 「まつり花」の範唱を聴き、聴いて感じたことについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 中国のきょくじゃないかな。 なめらかなかんじだね。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 「まつり花」のイメージを膨らませることができるように写真を提示する。 「まつり花」がなめらかな旋律線をもつことに気付くことができるように、「曲を聴きながら体を動かしてみよう」や「行進曲みたいに動くのがふしの感じに合うかな」等の発問をする。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 まつり花のかんじがでるように歌おう。		
旋律把握	3 「まつり花」の旋律把握をする。 (1) ふしのまとまりで区切りながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> くりかえされているね。 ふじ山よりもはやいのかな。 (2) 全体を通して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> 音のかえ方がむずかしいね。 	32	<ul style="list-style-type: none"> 正しい音程で歌うことができるように1フレーズごとだけでなく、2・3小節単位でも交互唱をする。 同じ旋律が繰り返されていることや旋律の感じの変化に気付くことができるように、教師と交互唱をする。 なめらかな感じを生かして歌うことができるように、本時の始めに取り上げた意見を振り返るよう助言する。 ふじ山とまつり花を比べられるように前時の学習で出た意見を提示する。 過度に小さく歌い、聞き取れない表現にならないよう、「小さすぎて見えない花になっていないかな」等の発問をする。 観点を明確にして鑑賞することができるように、特に意識して歌うことを出してから発表するようにする。
表現の工夫	4 「まつり花」の歌い方について話し合い、工夫しながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ふじ山の時は、うつくしい山に合うような声にしたよね。 3つめのふしのまとまりでつよさをかえてみたいね。 		
相互発表・鑑賞	5 相互発表・鑑賞をする。 <ul style="list-style-type: none"> きれいな声で花を表現している所がよくできているよ。 	5	<ul style="list-style-type: none"> どのような工夫をしたか振り返ることができるように、「イメージに合うようにどんな工夫をしたのかな」と発問する。 異国の文化を表現する楽しさについて振り返ることができるように、「中国の歌を歌えるようになったね」等の称賛をする。
まとめ	6 学習のまとめをする <ul style="list-style-type: none"> 花の様子に合うように、きれいな声で歌えたよ。 ふじ山と比べて小さくてかわいくするために小さな声で歌ったよ。 中国の歌を歌えるようになってうれしかった。 		

